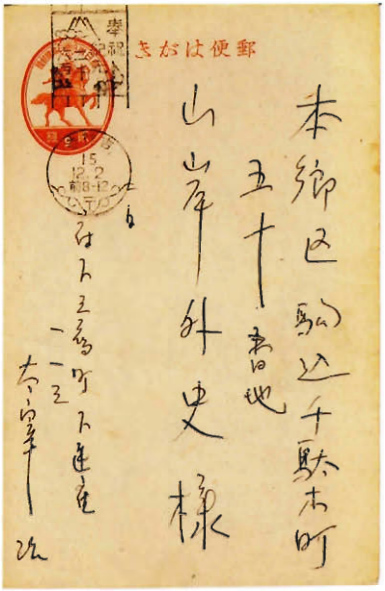
昭和15年（1940年）12月2日〔日にち直筆、消印〕

おハがキを、いただきました。お酒を呑むと、私も、たいてい後で、わるかったかしら？いけなかったかしら？と考へます。お酒のむ人の通癖のやうでもあります。そこがまた、味なところなのかも知れません。といかく、私は就いてはいろ心配さるな。私のはうこそ、すみませんでしたと言ひたいのです。私に、お金がウントあれば、兄とウントあそびたい。よく遊び、よく学びたい。このごろお仕事どうですか。私は、毎日、追はれてゐます。十二月十日以後は、休むつもりです。ナガサメル会は、ごもっとものやうにも考へられます。一切、白紙還元して、「忘年会」は如何。忘年の意味、やうやくわかったやうな気がします。六日午後五時、阿佐ヶ谷駅北口通り「ピノチオ」にて、文学を語る会あるは、私も出てみるつもりです。兄とお逢ひできるといいと思ひます



おハガキを、いただきました。お酒を呑むと、私も、たいてい後で、わるかつたかな？　いけなかつたかな？　と考へます。お酒のむ人の通癖のやうでもあります。そこがまた、味なところなのかも知れません。とにかく、私に就いては御心配なさるな。私のはうこそ、すみませんでしたと言ひたいのです。私に、お金がウントあれば、兄とウント遊びたい。よく遊び、よく学びたい。このごろお仕事どうですか。私は、毎日、追はれてゐます。十二月十日以後は、休むつもりです。ナグサメル会は、ごもつともものやうにも考へられます。一切、白紙還元して、「忘年会」は如何。忘年の意味、やうやくわかつたやうな気がします。六日午后五時、阿佐ヶ谷駅、北口通り「ピノチオ」にて、文学を語る会合ある由、私も出てみるつもりです。

兄とお逢ひできるといいと思ひます

本郷区駒込千駄木町五十番地　山岸外史様
二日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

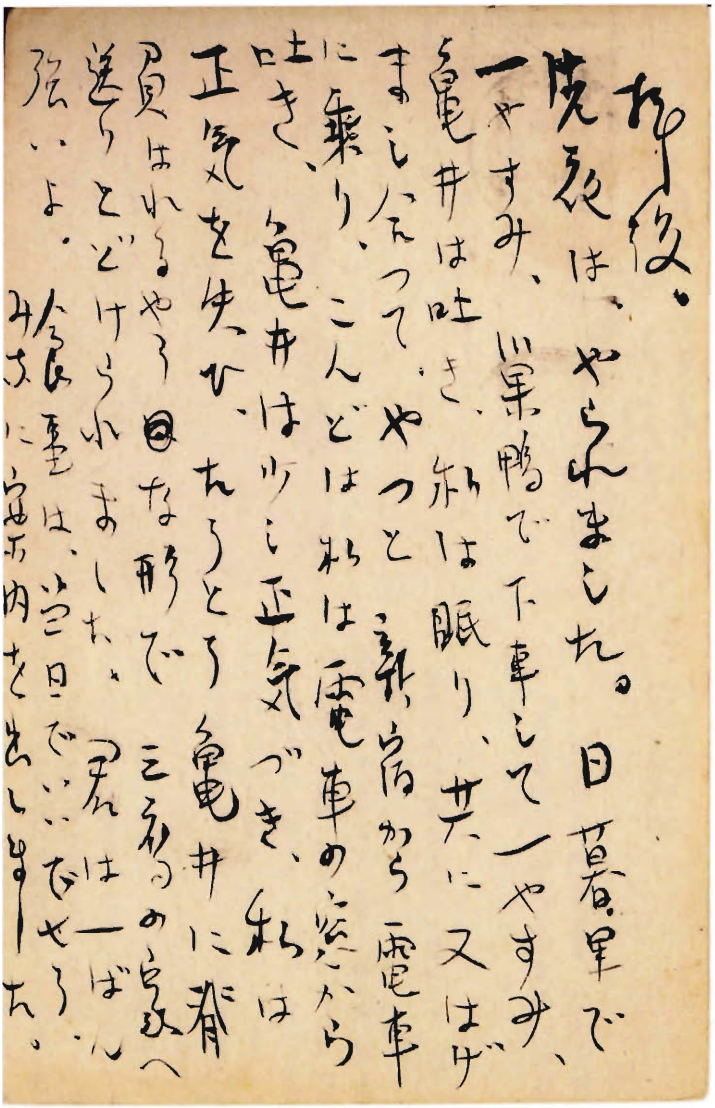
【校異】

すみませんでした、と〔全集〕→すみませんでしたと
ウンと遊びたい。〔全集〕→ウント遊びたい。
一切は、〔全集〕→一切、
午後六時、〔全集〕→午后五時、
阿佐ヶ谷駅〔全集〕→阿佐ヶ谷駅、
（改行なし）兄とお逢ひできると〔全集〕→（改行）
いいと思ひます。〔全集〕→いいと思ひます

【ノート】

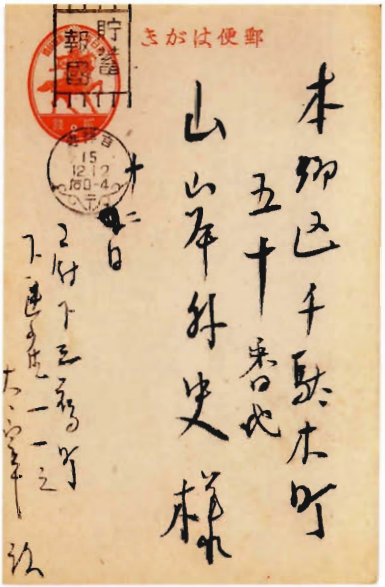
文学を語る会合――第一回の阿佐ヶ谷会。青柳瑞穂の許に集った中央線沿線の文学者、編集者の会。

昭和15年（1940年）12月12日〔日にち直筆、消印〕



拝復。

先夜は、やらかしました。日暮里で一やすみ、巣鴨で下車して一やすみ、亀井は吐き、私は眠り、共に又はげましあつて、やつと新宿から電車に乗り、こんどは私は電車の窓から吐き、亀井は少し正気づき、私は正気を失ひ、たうとう亀井に背負はれるやうな形で三角の家へ送りとどけられました。君は一ばん強いよ。娘達は、当日でいなくなりました。みなさんに宜敷伝へ下さいました。



拝復。

先夜は、やられました。日暮里で一やすみ、巣鴨で下車して一やすみ、亀井は吐き、私は眠り、共に又はげまし合つて、やつと新宿から電車に乗り、こんどは私は電車の窓から吐き、亀井は少し正気づき、私は正気を失ひ、たうとう亀井に背負はれるやうな形で三鷹の家へ送りとどけられました。君は一ばん強いよ。食事は、当日でいいでせう。

みなに案内を出しました。

本郷区千駄木町五十番地　山岸外史様

十二日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

【校異】

拝復〔全集〕→拝復。

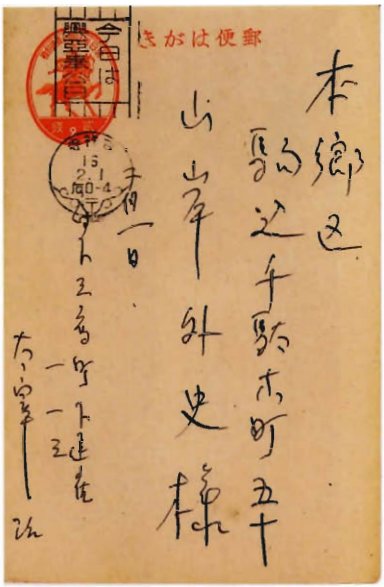
【ノート】

先夜は、やられました。――山岸外史『太宰治おぼえがき』によれば、新橋の烏森で芸者をあげて飲んだときのこと。「各自がそれぞれに自分の働いた金で酒も飲めれば、女房も養えるようになっているのだから、ここで自己慰安会を開催して、最大限に飲んでみようということになった」とある。書簡番号51の「ナグサメル会」、あるいは「忘年会」のことと思われる。

昭和16年（1941年）2月1日〔月日直筆、消印〕

先夜は、失礼いたしました。また、きのふは、励ましのおいがきをいただき、ありがたく思ひました。けふから、長篇の長編小説にとりかかります。三日位くらゐの猶予です。当分、他の仕事は断って、没頭しようと思ひます。象牙君のとこへ、本を返却しに行ったら、郵便新聞を渡されました。やっぱり私は、かなり●弟だと思ひました。安心して、これから努力できるやうに思ひます。何ながに見て下さい。象牙君の文章に武者氏が突然あらはれました。意外なほど、華麗なおぢいさんでした。いづれ、又。

又、文はあたたかい言葉でした。



先夜は、失礼いたしました。また、きのふは、励ましのおハガキをいただき、ありがたく思ひました。けふから、懸案の長編小説にとりかかります。三百枚くらゐの予定です。当分、他の仕事は断つて、没頭しようと思ひます。亀井君のところへ、本を返却しに行つたら、都新聞を読まされました。兄の文は、あたたかい言葉でした。やつぱり私は、かなり弟(おとうと)だと思ひました。安心して、これから努力できるやうに思ひました。気ながに見てゐて下さい。亀井君の応接室に武者氏が突然あらはれました。意外なほど、蕭洒なおぢいさんでした。いづれ、又。

本郷区駒込千駄木町五十　山岸外史様

二月一日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

武者氏――武者小路実篤。

【校異】

蕭洒〔全集〕→蕭洒

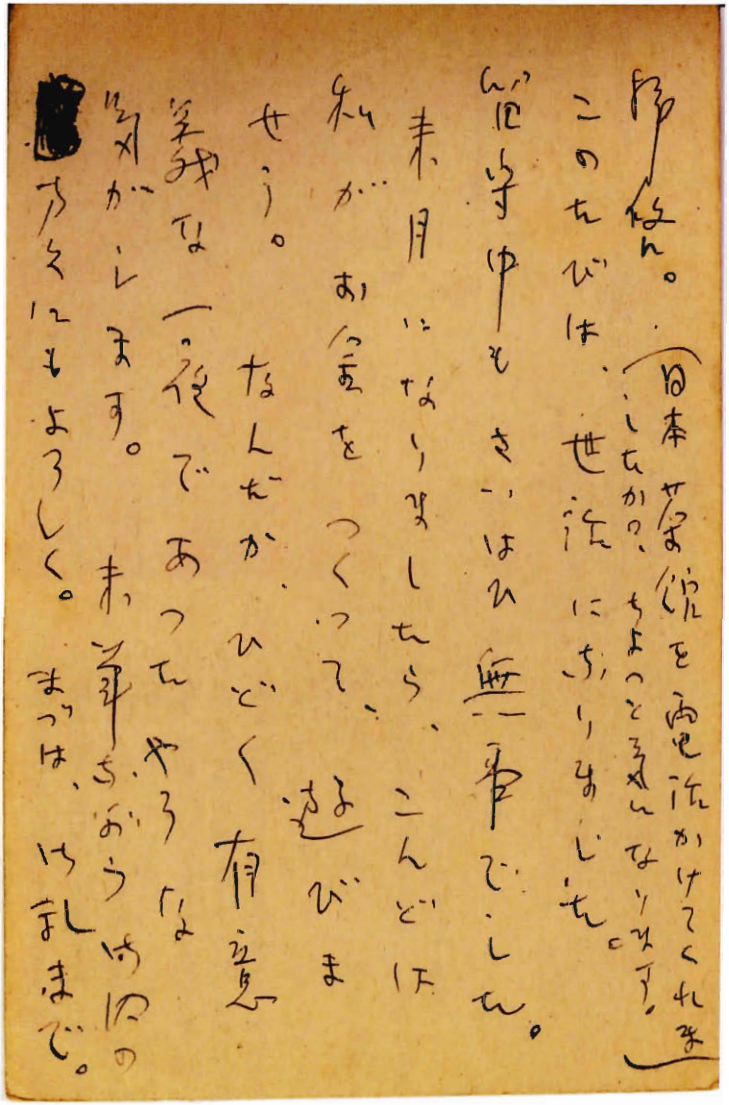
（改行）いづれ、又。〔全集〕→（改行なし）

【ノート】

長編小説――「新ハムレット」。

都新聞――山岸外史「文芸時評③」（「都新聞」昭和十六年一月三十一日）。作品名は挙げていないが、「太宰治氏の小説の面白さは」「心理の純粋度をもつてゐるところにある」、「その人間性とその生活が面白く読めるのは、太宰氏が極端に繊弱な良心家で、底の底に到つてゐる自己の生活を気取らずに表現してみせるからである」（ルビ省略）と称賛している。

昭和16年（1941年）2月12日〔日にち直筆、消印〕



御健康。（日本茶碗を西洋流かけてくれます。しちかの、ちょっとうまくなります。）

このたびは、世話にかりました。

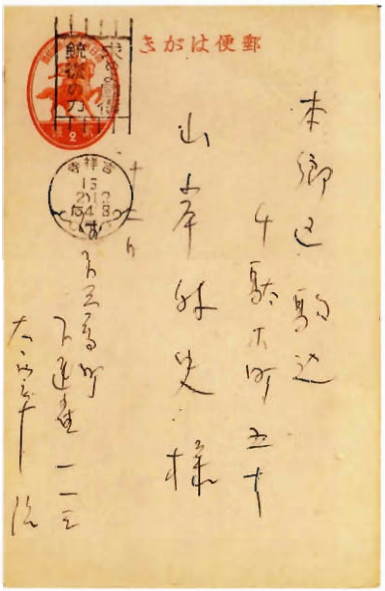
[illegible]ゆもさいはひ無事でした。

来月になりましたら、こんどは私がお金をつくって、迎びません。

なんだか、ひどく有意義な一週であつたやうな気がします。

[redacted]方々にもよろしく。

まつは、ハ乱まで。



拝啓。

このたびは、世話になりました。留守中もさいはひ無事でした。

来月になりましたら、こんどは私がお金をつくつて、遊びませう。なんだか、ひどく有意義な一夜であつたやうな気がします。末筆ながら御内の方々にもよろしく。まづは、御礼まで。

（日本茶館を電話かけてくれましたか？　ちよつと気になります。）

本郷区駒込千駄木町五十　山岸外史様

十二日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕→拝啓。

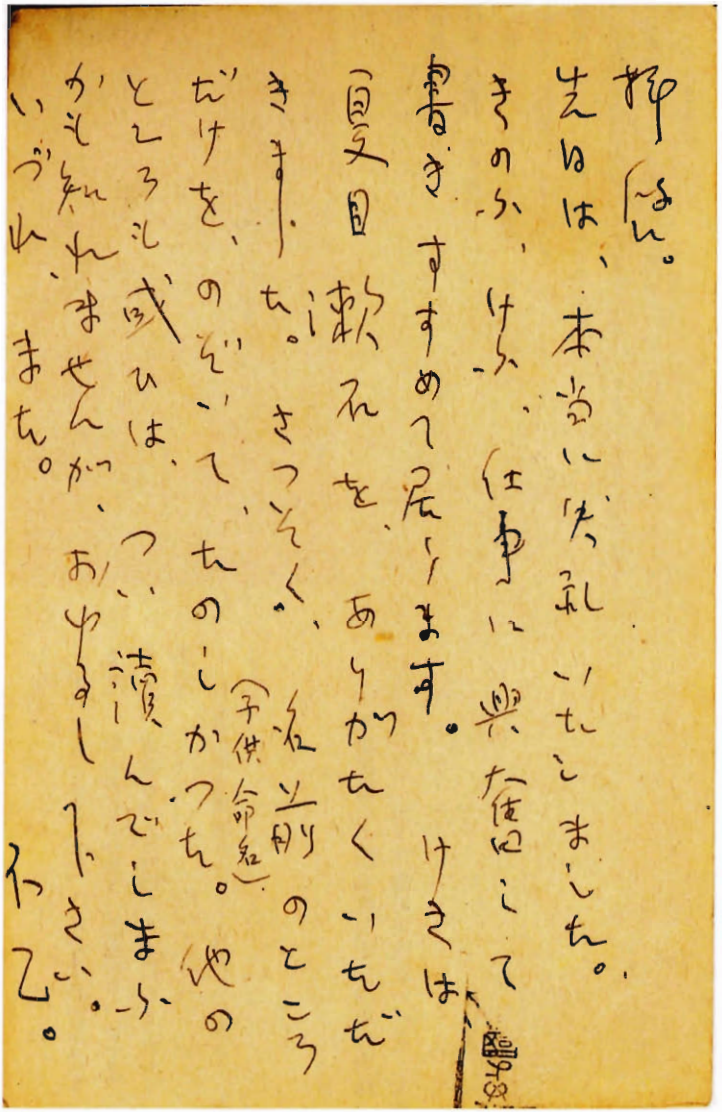
（改行なし）来月に〔全集〕→（改行）

ひどく、〔全集〕→ひどく

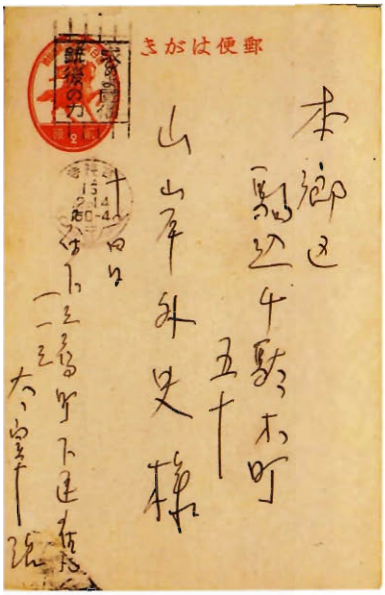
末筆ながら、〔全集〕→末筆ながら

日本茶館を電話かけてくれましたか？　ちよつと気になります。〔全集〕→（日本茶館を電話かけてくれましたか？　ちよつと気になります。）

昭和16年（1941年）2月14日〔日にち直筆、消印〕



御手紙。
先日は、本当に失礼いたしました。
きのふ、けふ、仕事に興味をもって
書きすすめて居ります。　けさは
夏目漱石を、ありがたくいただき
ました。さっそく、名刺（子供命名）のところ
だけを、のぞいて、たのしかつた。他の
ところも或ひは、つゝ、読んでしまふ
かも知れませんが、おゆるしください。
いづれ、また。
不乙。



拝啓。

先日は、本当に失礼いたしました。

きのふ、けふ、仕事に興奮して書きすすめて居ります。けさは、夏目漱石を、ありがたくいただきました。さつそく、名前（子供命名）のところだけを、のぞいて、たのしかつた。他のところも或ひは、つい読んでしまふかも知れませんが、おゆるし下さい。

いづれ、また。

不乙。

本郷区駒込千駄木町五十　山岸外史様

十四日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕→拝啓。

名前のところだけを（子供命名）、〔全集〕→名前（子供命名）のところだけを、

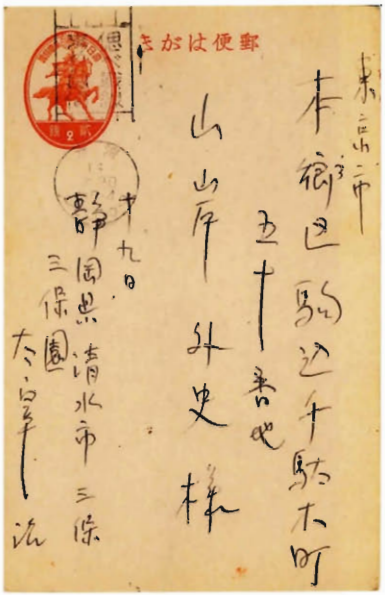
いづれ、また〔全集〕→いづれ、また。

【ノート】

夏目漱石――山岸外史『夏目漱石』（弘文堂書房、昭和十五年十二月）。

昭和16年（1941年）2月19日〔日にち直筆、消印20日〕

御紙。
仕事をしに、また記へ来てしまひます。しづかなお宿で、仕事が出来さうな気がします。しばらく、ここで専心精進してみるつもりです。
こんど、お逢ひしたときは、いろいろいろお話をお聞かせ致します。本当に。三保松原の実景の、伊豆隆山の下の宿屋です。不取敢お知らせ迄。



拝啓。

仕事をしに、表記へ来てしまひました。しづかな宿で、仕事が出来さうな気がします。

しばらく、ここで勇猛精進してみるつもりです。

こんど、お逢ひした時には、いろいろいいお話をお聞かせ致します。本当に。三保松原の突端の、白い灯台の下の宿屋です。不取敢お知らせ迄。

東京市本郷区駒込千駄木町五十番地　山岸外史様

十九日　静岡県清水市三保　三保園　太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕→拝啓。

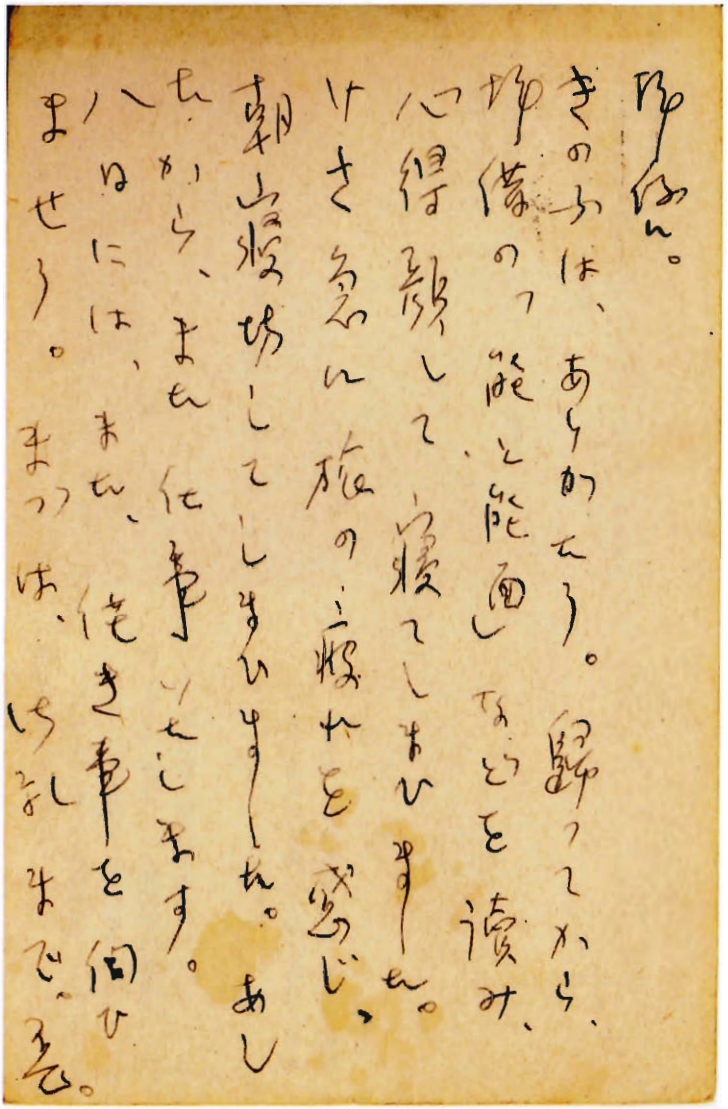
（改行）不取敢お知らせ迄。〔全集〕→（改行なし）

【ノート】

仕事――「新ハムレット」の執筆。

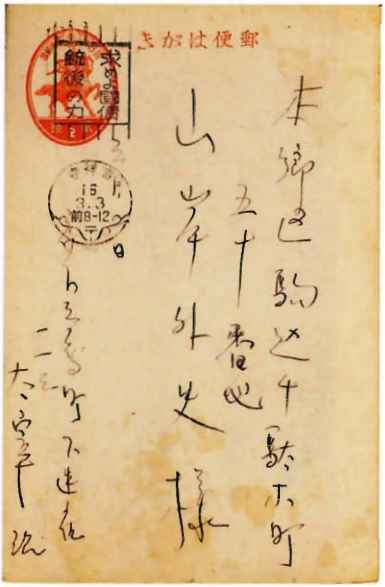
表記へ――文藝春秋に借金をし、十九日から清水市三保松原の三保園に滞在する。

昭和16年（1941年）3月2日〔月日直筆、消印は3日〕



即伯。

きのふは、あらかたう。歸つてから、
坊像のつ能と能面しなどを讀み、
心得強して、寢てしまひました。
けさ急に旅の疲れを感じ、
朝寝坊してしまひました。あし
たから、また仕事をします。
八日には、また、使き事を伺ひ
ませう。まつは、ひろしまで。



拝啓。

きのふは、ありがたう。帰つてから、拝借の「能と能面」などを読み、心得顔して、寝てしまひました。けさ急に旅の疲れを感じ、朝寝坊してしまひました。あしたから、また仕事いたします。

八日には、また、佳き事を伺ひませう。まづは、御礼まで。

不乙。

本郷区駒込千駄木町五十番地　山岸外史様

三月二日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

【校異】

三月三日〔全集〕→3月2日

拝啓〔全集〕→拝啓。

など読み、〔全集〕→などを読み、

心得顔して〔全集〕→心得顔して、

（改行なし）八日には、〔全集〕→（改行）

また佳き事を〔全集〕→また、佳き事を

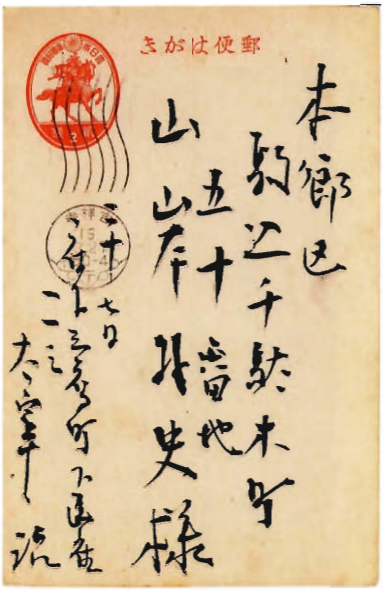
【ノート】

「能と能面」――金剛巌『能と能面（世界文庫）』（弘文堂書房、昭和十五年五月）

書簡番号58

昭和16年（1941年）3月27日〔日にち直筆、消印〕

ばらの芽が、とても綺麗
ですよ、私の家には
君からもらった　たからも
のが　たくさんあります、
みんな大事にしてね
ます、旅行がたのしみ
にふりました　もう少
しの辛抱です　不乙



ばらの芽が、とても綺麗ですよ、私の家には君からもらつたたからものがたくさんあります、みんな大事にしてゐます、旅行がたのしみになりました、もう少しの難行です

不乙

本郷区駒込千駄木町五十番地　山岸外史様

二十七日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

【校異】

綺麗ですよ。〔全集〕 ―→ 綺麗ですよ、

君からもらつた、〔全集〕 ―→ 君からもらつた

たくさんあります。〔全集〕 ―→ たくさんあります、

大事にしてゐます。〔全集〕 ―→ 大事にしてゐます、

たのしみになりました。〔全集〕 ―→ たのしみになりました、

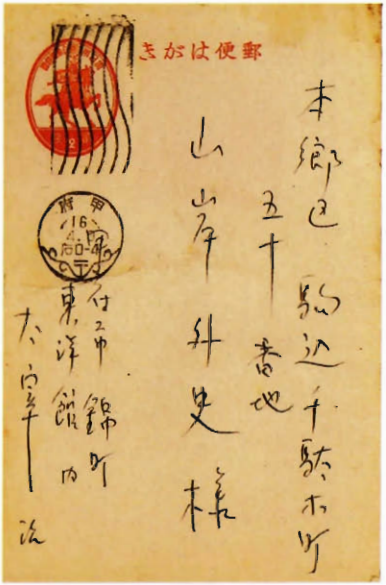
難行です。〔全集〕 ―→ 難行です

（改行なし）不乙。〔全集〕 ―→ （改行）不乙

昭和16年（1941年）4月9日〔消印〕

十日頃おゝでの由。十五は頃でしたら、私も一緒に三保へ行けさうな気もするのです。早くなれば、どうも酒を飲む機会も多く、仕事が思ふやうにはかどりません。甚だ心細く、淋しい気持であります。

貴兄の部屋のよゝやうにして下さい。早く逢ひたい気もしますし、このぶんでは三保行きも、だいぶあやしくなりました。思ひが、乱れます。とにかく貴兄の気のむいたやうにして下さい。



十日頃おいでの由。十五日頃でしたら、私も一緒に三保へ行けさうな気もするのです。甲府では、どうも酒を飲む機会も多く、仕事が思ふやうに、はかどりません。甚だ心細く、淋しい気持であります。

貴兄の都合のよいやうにして下さい。

「早く逢ひたい気もします。」

このぶんでは三保行きも、だいぶあやしくなりました。思ひが、乱れます。

とにかく貴兄の気のむいたやうにして下さい。

本郷区駒込千駄木町五十番地　山岸外史様
甲府市錦町　東洋館内　太宰治

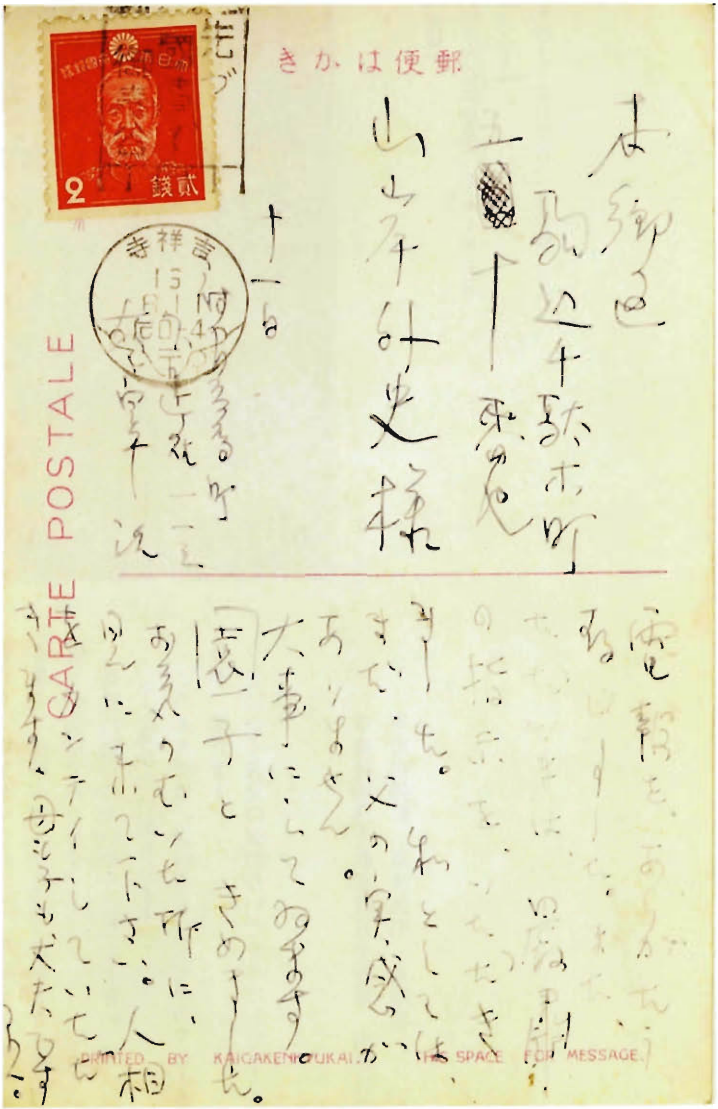
【校異】

四月六日〔全集〕→4月9日

【ノート】

甲府――四月五日に井伏鱒二と行く。

昭和16年（1941年）6月11日〔日にち直筆、消印〕



電報を、ありがたう存じました。また、ただいまは、厳粛の指示を、いただきました。私としては、まだ、父の実感がありません。

大事にしてゐます。園子ときめました。お気のむいた折に、見に来て下さい。人相をカンテイしていただきます、母も子も、丈夫です

不一。

本郷区駒込千駄木町五十番地　山岸外史様

十一日　府下三鷹町下連雀一一三　太宰治

【校異】

電報を〔全集〕→電報を、

（改行なし）大事にしてゐます。〔全集〕→（改行）

カンテイしていただきます。〔全集〕→カンテイしていただきます、

丈夫です。〔全集〕→丈夫です

（改行なし）不一。〔全集〕→（改行）

【ノート】

園子――太宰の初めての子。六月七日に誕生。